2022年9月2日

報道関係各位

国際言語学オリンピック日本委員会
(NPO法人 国際教育合作協会内組織)

国際言語学オリンピック2022・マン島大会
日本代表のメダル獲得について

▽9回目の参加となることしの大会で、日本代表2チーム7名は

▼個人戦で最優秀解答賞1つ、金賞2つ、銅賞1つ、努力賞3つを、

▼団体戦で銀賞1つ（世界3位）、銅賞1つ（世界4位）を獲得しました。

▽ことし初となった快挙は、以下の通りです。

▼団体戦での受賞　▼代表全員の受賞　▼同じ選手が2年連続金賞で殿堂入り

国際言語学オリンピック日本委員会（IOL日本委員会）は、7月24日（日）から30日（土）までマン島で開催された「国際言語学オリンピック2022（IOL2022）」に2チーム7名の日本代表選手を派遣しました。日本からの派遣は10年目（9回目）となったことしは、上記の通り個人戦・団体戦ともに過去最高の結果を持ち帰りました。

弊委員会は、今後も国内予選大会の運営や国際大会への代表派遣を通じて、青少年を中心に広く言語学の楽しさや面白さを伝えてまいります。

ご多用とは存じますが、是非とも取材をご検討いただければ幸いです。

▪日本代表選手の一覧

本件に関する日本代表選手への取材は、弊委員会を通していただきますようお願いいたします。

氏名	所属校・学年	ことしの賞	備考
石井 誠子 （いしい・せいこ）	渋谷教育学園渋谷高校3年	個人戦: 金賞 団体戦: 銅賞	Team Ninja
川野 優真 （かわの・ゆうま）	海城高校2年	個人戦: 努力賞 団体戦: 銅賞	Team Ninja
工藤 莞駒 （くどう・いこま）	北海道札幌南高校2年	個人戦: 銅賞 団体戦: 銀賞	Team Samurai
久保宮玲於奈 （くぼみや・れおな）	所属なし（ギャップイヤー）	個人戦: 努力賞 団体戦: 銅賞	Team Ninja 2019, 2021年出場

桜木陽也 （さくらぎ・はるや）	栄光学園高校2年	団体戦: 銅賞	Team Ninja
星井 崇道 （ほしい・たかみち）	筑波大学附属駒場高校3年	個人戦: 最優秀解答賞+金賞 団体戦: 銀賞	Team Samurai 2021年も個人戦で金賞
森澤 優真 （もりさわ・ゆうま）	芝高校3年	個人戦: 努力賞 団体戦: 銀賞	Team Samurai 2021年出場

▪個人戦で金賞と最優秀解答賞、団体戦で銀賞を受賞した星井選手のコメント

なんといってもIOLの醍醐味は国際交流でした。大会期間中にマン島のビーチに行く機会に恵まれたのですが、世界に存在する(した)言語の名前をできる限り挙げていくゲームを楽しみました。いわゆる山手線ゲームですね。

何とも変わった時間だったのですが、ああこういう変人は世界中にもいるんだな、と沢山の同志の存在にワクワクしていたものでした。

他にも、夜遅くまで香港チームとボードゲームをしたりと、まるで修学旅行のような、終始楽しい5日間でした。

賞としては、2年連続の金賞、そして日本初となる団体戦銀メダル。納得のいく結果で終わり、チームメンバーには感謝しかありません。

来年は進学予定なので、残念ながら3回目の挑戦の機会は無いかと思います。しかしながら、言オリの規模は年々拡大していますし、新しいチャレンジャーが続々と顕れてくるでしょう。ここ数年、日本勢は「過去最高」の結果を残し続けていますし、来年の結果にも勝手に期待しています。

▪個人戦で金賞、団体戦で銅賞を受賞した石井選手のコメント

国際大会は言語の奥深さに触れられると同時に、多才な同年代の人たちと交流できる場でした。初見の言語データと対峙した時間は言うまでもなく、自由時間に他国の代表からサインを集め、煎り大豆配りに奔走したことも良い思い出です。最近は大会で知り合ったロシア人の日本語学習者と、九割方日本語・英語まじりのロシア語で会話することを楽しみに生きています。今後も何らかの形で言語学オリンピックのコミュニティと関わっていきたいです。

▪個人戦で努力賞、団体戦で銀賞を受賞した森澤選手のコメント

言語学オリンピックでは単語や文法規則がデータとして予め提示されるので〇〇語の単語を覚えるというような暗記は一切必要ありません。しかし、これによってむしろ自分の能力やひらめき力に頼らなくてはいけなくなります。

だから初心者も初めから経験者と同じ立場に立つことができ、これが言語学オリンピックの魅力のひとつになると思います。

日本予選の受験者数が数年前から倍増し、難易度も格段に難しくなったことで日本のレベルが毎年どんどん上がっているように思います。参加者が増えるのはとても嬉しいことなので、興味のある方はぜひ予選を受験してほしいです！

▪個人戦で努力賞、団体戦で銅賞を受賞した川野選手のコメント

国際言語学オリンピックには初めて参加しました。個人戦で努力賞、団体戦で銅賞を獲得する事ができました。チームの皆さん、ありがとうございます。

また海外に渡航するのも初めてでしたが、国外での生活や世界の人との交流は、新鮮な経験になりました。

今回の反省点は、時間配分を少し間違えてしまった事です。個人戦はあと0.9点で銅賞だったので、反省を活かして次回も挑戦したいと思います。

▪団体戦で銅賞を受賞した桜木選手のコメント

団体戦で銅メダルを獲得でき、とても嬉しいです。チームの皆さんには本当にお世話になりました。

大会を通じて他国の言語好きと仲良くなることができ、帰国後もオンラインチャットで言語についての議論を楽しんでいます。

来年またIOL代表に入ることができたら、今年叶わなかった個人戦入賞を目指したいと思います！

▪選手を引率した小林剛士（こばやし・つよし）コーチのコメント

日本代表という立場、課される難問、人によっては初めての海外。様々なプレッシャーの中で、事前練習や競技にめげずに取り組んだ代表たちを心から尊敬しています。過去最高の成績は彼らの努力の賜物であり、嬉しく思います。

事前練習や大会期間中を通じて、私が心がけたのは、代表生徒たちに楽しんでもらうということです。難題に取り組むことが「楽しかった」という記憶はその後の人生の大きな原動力になるからです。実際、問題を解いたり、他の代表と解法や言語現象をあれこれ議論したり、現地で海外の生徒と交流したりできて楽しかったと代表たちから聞いています。

国際大会への参加という壁を超えて、代表たちは、知らないことに挑戦したり、海外に出たり、物事に深く全力で取り組んだりすることに、これまでよりも抵抗を感じなくなっていると思います。代表たちの今後の活躍が楽しみです。

▪選手を引率した佐藤和音（さとう・かずね）コーチのコメント

改めて、今回の国際大会でめざましい活躍を見せてくれた日本代表全員を、とても誇りに思います。IOLの問題はどれも一筋縄では解けない難問ですし、回を重ねるごとにどんどん難しくなっていると感じます。今年も超ハイレベルな問題でしたが、日本代表選手も実力を上げて難問に取り組み、すばらしい結果を残してくれました。

今年は、3年ぶりの対面開催ということもあり、選手たちもとてもリラックスして大会に臨めていたように思います。普段あまり世界中の仲間たちと共通項を持って交流するチャンスがないぶん、自分の中の殻を破るように他国の代表たちとどんどん積極的にコミュニケーションを取って、一緒にボードゲームなどをしたりサインをお願いしたりしていた姿もとても印象的でした。

「勝って兜の緒を締めよ」という気持ちで、来年は「全員個人戦メダル獲得・団体戦優勝」という目標を達成するべく、引き続きしっかり指導に励んでいきたいです。

▪大会の概要

国際言語学オリンピック（IOL）は、主に中等教育課程の生徒を対象とした国際科学オリンピックの一つです。2003年にスタートし、毎年夏に開催されています。新型コロナウイルス感染拡大後初の対面開催となったことしの大会は、グレートブリテン島とアイルランド島の中間に位置するマン島の古都・キャッスルタウンで7月下旬に開催され、日本を含む32の国と地域から46チーム、計184名が参加しました。

当大会が主眼に置くのは、言語学の楽しさ・面白さを伝え、中高生や一般の方の言語学・言語・言語多様性への関心を高めることです。

言語学オリンピックの問題は、実際の言語研究で行われる分析に似ていて、**「初めて見る言語のデータから隠れた法則を解き明かす」**というものです。謎解きやパズルのように、分析力、情報処理能力、論理的思考、試行錯誤する力が求められます。

問題を解くにあたり、「暗記力」は必要ありません。答案を書くために必要な情報はすべて問題の中に隠されています。語学試験や弁論大会とは異なり、英語やその他特定の言語を話したり書いたりするための運用能力は求められません。

むしろ、偶然その言語を知っていることがないよう極めて認知度の低い言語を題材にした問題が出題されます。IOL2022には南アフリカのヌーキ語やオーストラリアのアラバナ語が出題されました。こうした言語は話者がきわめて少ない、いわゆる「少数言語」です。少数言語への関心を高めることも、言語学オリンピックの活動目的の一つです。

日本代表は、代表決定から国際大会までの4カ月の間、他の日本代表や過去大会経験者との合同練習会を計30時間、アジアの各国代表との合同練習会を計15時間、さらには自主練習を積んで、国際大会に備えました。

練習会では、過去問を用いて、初めて見る言語のデータからその言語が持つ法則性を推論によって解き明かし、法則性を表やフローチャートを用いて表現する訓練を積みました（別添資料3をご参照ください）。さらに、言語学が培ってきた言語の分析方法を言語学専攻の大学院生から学びました。

中学や高校では言語学に触れる機会がないため、日本代表であっても多くは言語学オリンピックを知るまでは「言語に潜む法則性を見つける」課題に取り組んだ経験がほとんどありません。それでも日本代表たちは国内予選への挑戦や問題演習、講義を通じて、努力を積み、言語の法則性を見出す推論能力を身に着け、高めていきました。

▪賞の授与基準

IOLのメダルは全競技者数の上位約3割に授与され、金:銀:銅の受賞者の比率がおおむね1:2:3になるよう調整されます。

メダルには届かなくても、平均点以上の点数を獲得した競技者には、努力賞（Honourable Mention）が授与されます。

最優秀解答賞（Best Solution Award）は個人戦で問題ごとに選ばれ、各問題の上位1〜3位で、満点かそれに近いエレガントな答案を提出し、想定解を超えた問題の本質的理解を示した競技者に授与されます。

ことしの個人戦では、最高点が82.9点、金賞ボーダーが60.3点、銀賞ボーダーが47.5点、銅賞ボーダーが39.9点、努力賞ボーダー（＝平均点）が33.4点でした。また、金賞は9人、銀賞は23人、銅賞は27人、努力賞は32人に授与されました。

▪その他

言語学オリンピックに関する一般的なご案内は、弊委員会公式サイト iolingjapan.org に掲載しております。サイト上のコンテンツはライセンスCC-BYの範囲内で自由にご利用いただけます。

また、弊委員会の公式 Twitter アカウント @iolingjapan もぜひご確認ください。

▪発信元

国際言語学オリンピック日本委員会 委員長 風間伸次郎 (東京外国語大学 教授)

お問い合わせ先:
国際言語学オリンピック日本委員会
事務局長　小林 剛士
メール: jolinguistics@gmail.com

JOL 国際言語学オリンピック日本委員会

▪別添資料1: IOL2022・個人戦第1問（ウビフ語）

問題1（20点）． 以下にウビフ語の動詞「与える」の語形とその日本語訳がある:

1. ***wəš'tʷən*** — 私達が彼に君を与える
2. ***sawtʷən*** — 君が彼らに私を与える
3. ***awəstʷan*** — 私が君に彼らを与える
4. ***wəsənatʷən*** — 彼らが私に君を与える
5. ***ŝʷəstʷan*** — 私が彼に君達を与える
6. ***š'antʷan*** — 彼が彼らに私達を与える
7. ***awəš'tʷən*** — 私達が君に彼を与える
8. ***səŝʷəntʷan*** — 彼が君達に私を与える
9. ***aŝʷəstʷan*** — 私が君達に彼を与える

(a) 上記の9つの形態のうち最後の1つは実は日本語で2つの翻訳が可能である。その二番目の翻訳は何か？

(b) 日本語に訳しなさい:

10. ***aš'əntʷən***
11. ***səŝʷtʷan***
12. ***š'əwənatʷan***

(c) ウビフ語に訳しなさい:

13. 彼らが私に君達を与える
14. 君達が私に彼を与える
15. 君が彼に私達を与える
16. 私達が彼らに君を与える
17. 彼が私達に彼らを与える

⚠ ウビフ語はアブハズ・アディゲ語族に属する。1864年までは、現在のロシアのソチと呼ばれる地域で数万人によって使われた。ウビフ語の最後の話者であるテヴフィク・エセンチは1992年トルコで死去した。

ə は母音；*š'*、*ŝʷ*、*tʷ* は子音。 —ピョートル・アルカディエフ

▪別添資料2: 授賞式後に会場でメダルを持つIOL2022日本代表

▪別添資料3: 練習会で日本代表が作成した表(抜粋)

○動詞

語根 ― 主語人称/時制

	過去	現在	未	*1
1.sg	-aan	-iin	-anii	-eni
2		-eeb	-aneeb	-eneb
3.sg.m	-oon	-een	-aneen	-ene
3.sg.f	-iin	-uun	-anuun	-enu
1.pl		-uub	-anuub	-enub
3.pl.m		-iib	-aniib	-enib

- ヨンゴム語では、「食べる」と「飲む」は同じ単語で表される
- 語根の最後の母音が、接尾辞の最初の母音と同化するもの：
  来る，起き上がる，去る，聞く

注）XがV_1(して)、YがV_2(する) のような compound sentence で、

X ≠ Y の場合、(X, Yは主語)

V_1 の接尾辞は *1 のようになる。

X = Y の場合、

V_1 の接尾辞は、$\boxed{*2}$ -a のようになる。

ただし、-ba > -wa